

テーマ:『 ピカピカ輝く、科学が好きな「さやっ子」を育てる環境教育 』

北九州市立 鞆ヶ谷小学校

Tel. 093-871-3005 担当者: 保科 圭二



■実践内容:

- ほたる学習と環境教育(総合的な学習の時間)
 - ・ 4年生は、飼育舎・人工川・ホテル川で幼虫観察、カワニナのえさやり、清掃、浄化装置の洗浄等の常時活動、えさとなるカワニナの採取、5年生は、天籟寺川の河川清掃、そして、児童・保護者の希望者により、ほたる観賞会(ほたる飼育委員会の発表や特別非常勤講師の方のお話、ほたる観賞)を行いました。また、4年生や委員会児童は、10月上旬に人工川にほたるの幼虫を放流しました。
 - ・ 全校児童は、ここ数年間、毎週金曜日を「ごみ0運動」として位置づけ、登校時にごみ拾いを行っている。
- 星空学習と環境教育
 - ・ 星空観望会(上弦の月、木星、アルビレオ、夏の大三角形の観察)や月や太陽の継続観察(理科学習との関連)を行いました。
- 理科学習の充実(主題研究の推進)
 - ・ 豊かな植物栽培体験の充実のため、年間計画を作成し、野菜づくり体験(2年～6年)を行った。収穫できるものを選択し、自分たちでしっかりと世話をすることができました。
 - ・ 自然体験、遊び体験等、1年生は、保育園児との交流活動(生活科の時間に学級別に近隣保育園2園との活動)を行った。年間を通して、学期に1回以上は、取り組めた。
 - ・ 理科学習における言語活動の効果的な位置づけと学習場面の設定、国語科との関連的指導を核にすえ、授業実践を積み重ねた。
- エコタウン構想
 - ・ 年度途中に6年生は、「夢のエコタウンづくり」(施策事業)に取り組むことになった。その活動を通して、環境教育の視点から、エコタウンについて考えさせることができた。

■実践成果:

- ほたる学習や星空学習で学んだことを「環境とのつながり」という視点で強く意識させながら考えさせたことで、自分たちの日常生活において、自分たちができることを進んで行なう態度の育成を図ることができた。
- 低学年においては、生活科学習を通して、直接体験で得た気づきを自分の言葉で表現したり、国語科学習の関連において、お互いの考えを伝え合うことのよさに気づいたりさせることができた。
- 中・高学年においては、理科学習に「言語活動を活発にする学習場面」を設定し、適切な指導・支援を行なうことで、言葉の力を伸長させ、観察・実験における予想や結果をもとに、自らの考えを伝え合い、表現できるようになった。
また、友達の考えのよさを取り入れ、新たな考え方や見方ができるようになることの喜びを実感し、それを生活の中で活用することができるようにさせている。

■実践ポイント:

- 鞆ヶ谷小学校におけるホテル飼育や植物栽培等を核にした環境教育は、これまでの積み重ねがある。従って、児童が主体的に取り組むための「興味・関心」、「学習スタイル」等を確立し、日常において、児童自らが意識して活動できるようにする。
- どの学年の取組も自分たちの生活を十分に意識できる活動になっている。
- 言語活動を大切に取組になるように活動計画を作成している。